

HYDROGEN  
FUEL CELL



**CHINO**

証券コード：6850

## 第89期

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

### トップメッセージ

**「ループソリューション力」の更なる高度化により  
“顧客価値や社会価値を満たす製品やシステム”を提供し、  
持続的な成長と企業価値の向上を目指します。**

株主の皆様には、平素より当社グループに対する格別のご高配を賜り、心から御礼申し上げます。

当期の日本経済は、エネルギー価格の高止まりや物価の高騰、中国経済の低迷など不透明な状況が続き、足元では米国における関税政策が今後の世界経済全般に影響を及ぼすことが懸念されています。

このような状況のなか、当社グループは、顧客価値創造と顧客増を目指す連携・共創の体制整備や仕組み作りをさらに進めるとともに、当社グループの製品・サービスの差別化と市場での競争力強化を図るため、温度を軸とした製品・技術・ノウハウを組み入れる「ループソリューション力」の更なる高度化に取り組みました。

2025年度は、中期経営計画NX26（2021～2026年度）の5年目となり、「Phase2: 成長の加速」の2年目となります。今年度は顧客起点の情報を基にした顧客価値の創出に向けた取組みをスピードアップさせ、引き続き「ループソリューション力」の更なる高度化に取り組みながら“顧客価値や社会価値を満たす製品やシステム”を提供し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役 社長執行役員  
豊田 三喜男

## 当期の業績について

当期の連結業績は、受注高は、脱炭素関連（燃料電池評価試験装置や水電解評価装置）の需要継続および大型案件（計装システム）の受注により29,721百万円（前期比8.2%増）となりました。

売上高は、当社グループの事業全般に関係する製造業の設備投資が堅調に推移したことにより29,329百万円（同6.9%増）となりました。

損益面につきましては、増収による効果や継続的な原価低減の取組みに加え、製品価格改定（2024年4月実施）の効果が顕れ、営業利益は2,879百万円（同32.4%増）、経常利益は3,034百万円（同25.7%増）、当期純利益（親会社株主に帰属）は1,991百万円（同13.4%増）となり、売上高および各利益はいずれも過去最高額を達成しました。

また、セグメント別の業績（前期比）は、下記の通りです。

[計測制御機器]：半導体・電子部品の製造設備や熱処理装置向けを中心に需要が堅調であったことにより増収となり、セグメント利益は製品価格改定（2024年4月実施）の効果が顕れ増益となりました。

[計装システム]：自動車向けの燃料電池評価試験装置や、水素エネルギー利用の研究・開発用途の水電解評価装置の需要が拡大し増収となり、セグメント利益は大型案件の利益率改善により増益となりました。

[センサ]：電子部品の製造装置や熱処理加工向けを中心に需要が堅調であったことや明陽電機（グループ会社）の売上高増加により増収となり、セグメント利益は増収効果等により増益となりました。

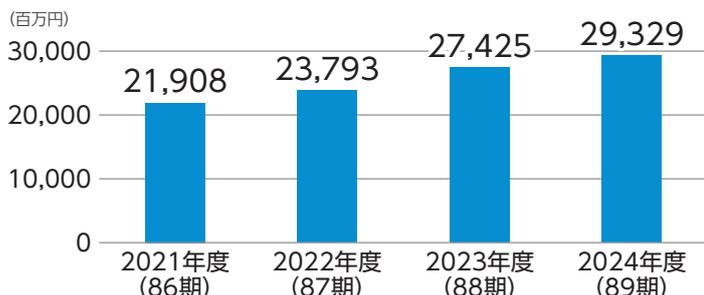
[その他]：増収減益となりました。

## 連結財務ハイライト

### ◆連結財務データ

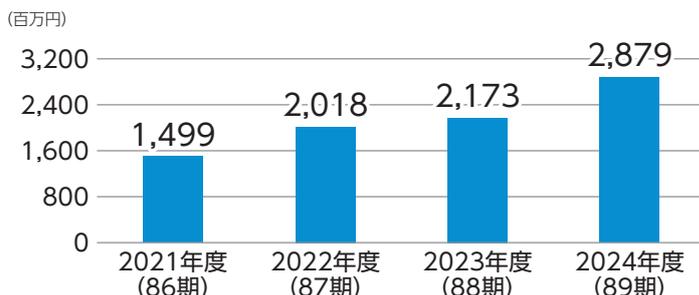
#### 売上高

29,329百万円（前期比 6.9%増）



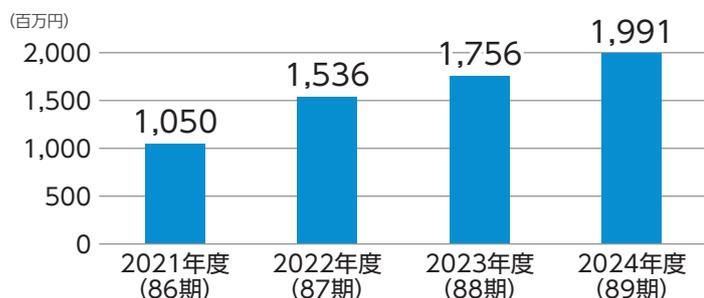
#### 営業利益

2,879百万円（前期比 32.4%増）



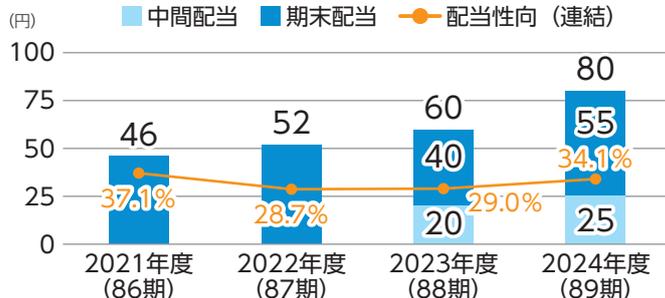
#### 当期純利益（親会社株主に帰属）

1,991百万円（前期比 13.4%増）



#### 1株当たり配当金

80円（前期比 20円増配）



### ◆セグメント別の業績 ※（ ）内は対前期比増減率

#### ① 計測制御機器

売上高 9,744百万円（+6.3%）

セグメント利益 1,511百万円（+28.8%）

#### ③ センサ

売上高 8,597百万円（+13.9%）

セグメント利益 1,706百万円（+22.0%）

#### ② 計装システム

売上高 9,958百万円（+2.7%）

セグメント利益 1,551百万円（+22.4%）

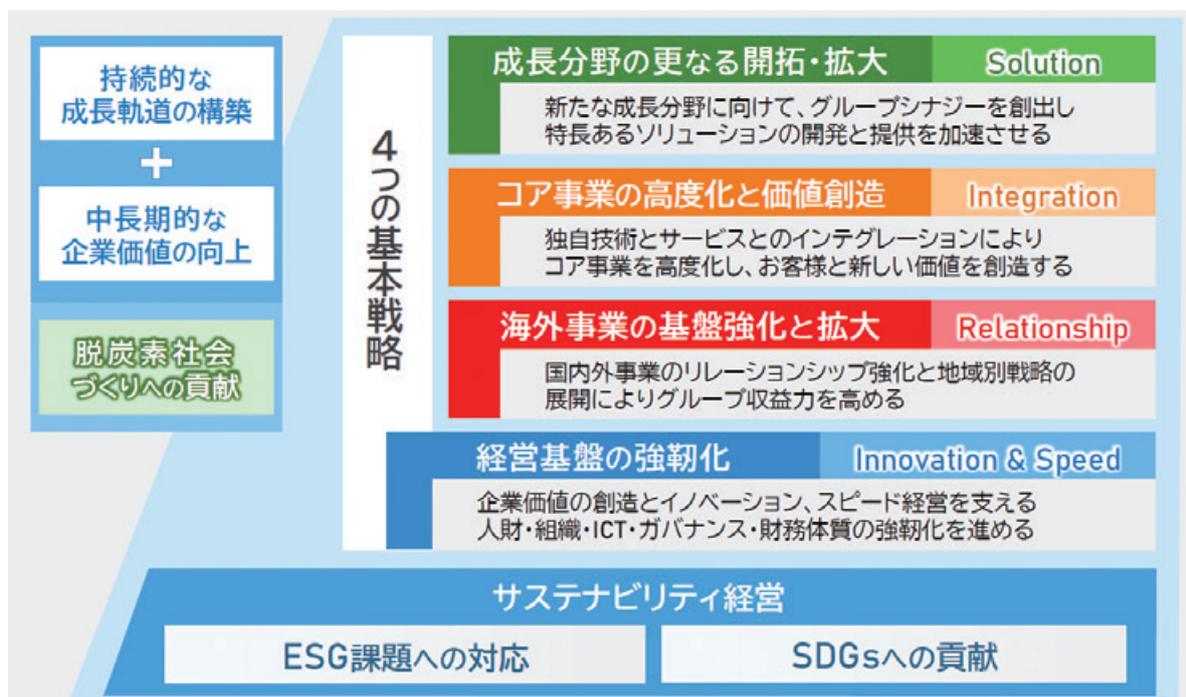
#### ④ その他（修理・サービス等）

売上高 1,029百万円（+2.3%）

セグメント利益 251百万円（▲16.7%）

# 中期経営計画

## ■ 中期経営計画2026の概要



## ■ 当期の進捗状況

項目	2024年度 実績	2026年度 KGI (※)
売上高	29,329百万円	30,000百万円
営業利益	2,879百万円	2,700百万円
営業利益率	9.8%	9.0%
海外売上高	6,188百万円	7,000百万円
ROE	9.4%	10.0%
ROA (分子：営業利益)	7.8%	8.0%

※2021年3月発表数値

## ◆ 4つの基本戦略と2024年度の活動概要

### 成長分野の更なる開拓・拡大 Solution

- 成長分野として注目している半導体・電子部品の製造設備や自動車・航空機部品の熱処理設備向けに、温度計測・制御・記録装置の販売強化を継続し、特に温度センサ・放射温度計の需要が大きく伸長しました。
- 脱炭素化関連では、水素社会の実現に向けた水電解装置や燃料電池試験装置の需要が引き続き好調です。また、空調用コンプレッサ評価装置では、自然冷媒の需要拡大により販売が伸びています。今後も生産体制を強化し、増加する需要に対応してまいります。

### コア事業の高度化と価値創造 Integration

- 規制の強化により温度・湿度に関する高精度な管理が求められるようになっており、校正試験の受託件数や出張校正サービスの需要も増加しています。多様化・増加するニーズに対応するため、校正予約システムを導入し、管理体制の強化を図りました。
- 当社専用クラウドサービス（チノークラウド）は、2025年度の有償版サービス開始を目指して開発を進めています。計測データの遠隔監視やデータ管理を通じて、新たなデータ利活用の価値を提供してまいります。

### 海外事業の基盤強化と拡大 Relationship

- 国内外の営業・サービスが一体となったグローバル体制により、国内企業の海外現地法人向け需要を獲得しました。
- 海外子会社と国内営業が市場情報を共有し、複数国に共通するニーズに応じた特定市場向け製品を投入しました。
- グループ収益拡大に向け、アセアン・インドを中心にグループ内取引の拡大を進めています。

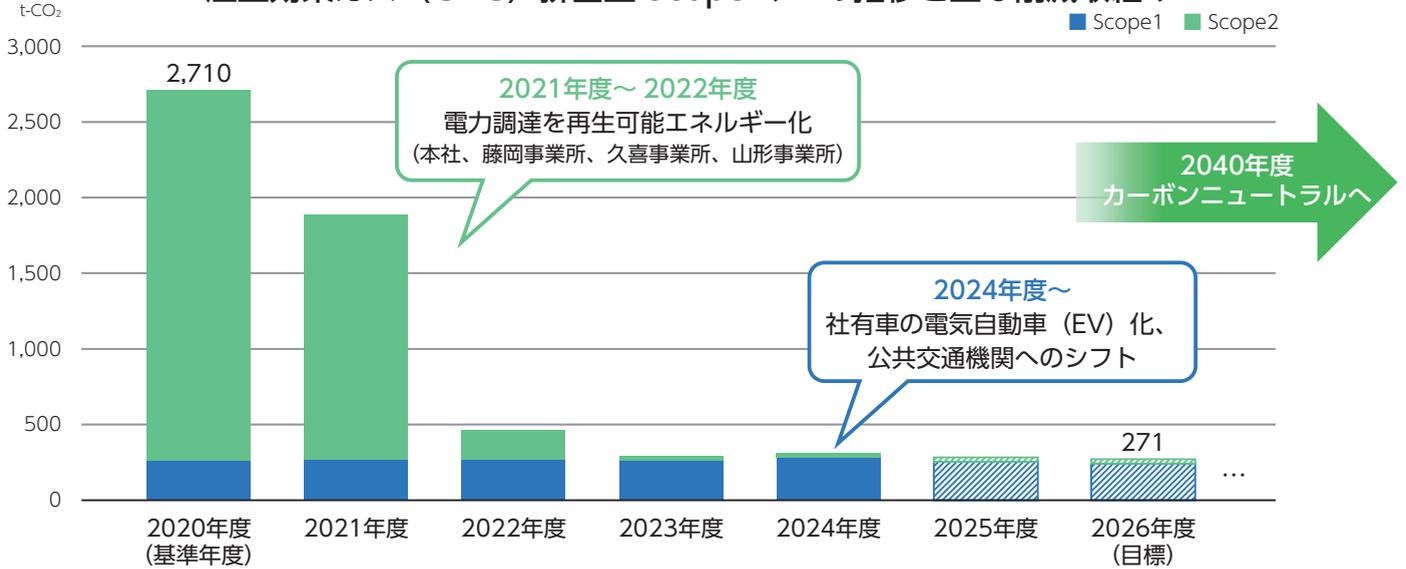
### 経営基盤の強靱化 Innovation & Speed

- 人事関連諸制度の再構築について基本構想の策定および考課制度とシニア制度の具体設計を進めるとともに、管理職マネジメントのアップデート等を中心に人的資本の強化を図りました。また、組織の活性化に向けて組織改善サーベイに基づく職場単位のPDCA活動を継続し、全体として着実な成果を得ています。
- DX推進に資するICT基盤の整備、女性取締役の登用やグループ内部統制の整備、配当還元の充実とIR活動の強化、TCFDシナリオ分析の公表等を通じ、中計Phase2の1年目に所期した経営基盤の強靱化を前進させました。

## 当社の気候変動リスクへの取組み – 温室効果ガス（GHG）の排出削減 –

当社は、気候変動をサステナビリティ経営の最重要課題の一つと位置づけ、脱炭素社会の実現に向けた取組みを進めています。その一環として、事業活動に伴う温室効果ガス（GHG）のScope1（燃料等の使用による直接排出）およびScope2（購入電力等の使用による間接排出）の段階的な削減を推進し、2040年度までに排出量ゼロを目指しています。その中間目標として、2026年度までに2020年度比で90%の排出削減を目指していますが、これまでの取組みの結果、2024年度で88.5%の削減を達成しています。今後も全社一丸となって更なる削減に取り組んでまいります。

### 温室効果ガス（GHG）排出量 Scope1、2の推移と主な削減取組み



GHG排出量	2020年度 (基準年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2026年度 (目標)
Scope1	261	266	265	260	285	
Scope2	2,449	1,621	196	31	29	
合計 (Scope1、2)	2,710	1,887	461	290	313	271
削減率 (2020年度比)	—	30.4%	83.0%	89.3%	88.5%	90.0%

※ 当社グループのサステナビリティに関する取組みは、下記URLをご覧ください。  
<https://www.chino.co.jp/jp/serv/sustainability/>

### ◆ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2024年 3月末	2025年 3月末	科目	2024年 3月末	2025年 3月末
流動資産	26,050	27,268	流動負債	9,317	9,390
現預金	7,305	8,127	仕入債務	4,618	4,026
売上債権	8,738	8,834	短期借入金	1,581	1,638
棚卸資産	9,707	10,069	その他	3,116	3,725
その他	298	238	固定負債	4,021	3,341
固定資産	10,480	10,496	長期借入金	1,443	969
有形固定資産	6,159	6,169	その他	2,578	2,371
無形固定資産	297	290	純資産	23,191	25,033
投資その他の資産	4,023	4,036	株主資本	19,654	21,120
資産合計	36,530	37,765	その他の包括利益累計額	606	857
			非支配株主持分	2,931	3,055
			負債純資産合計	36,530	37,765

### ◆ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	2023年度	2024年度
売上高	27,425	29,329
売上総利益	8,390	9,366
営業利益	2,173	2,879
経常利益	2,413	3,034
当期純利益 (親会社株主に帰属)	1,756	1,991

### ◆ 連結CF計算書

(単位：百万円)

科目	2023年度	2024年度
営業CF	101	2,543
投資CF	81	▲ 667
財務CF	▲ 1,104	▲ 1,103

# トピックス

## 藤岡事業所の緑化推進運動が評価され「内閣総理大臣表彰」を受賞

「チノービオトープフォレスト（当社藤岡事業所内）」の緑化推進活動が評価され、2025年4月に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

### < 取組み >

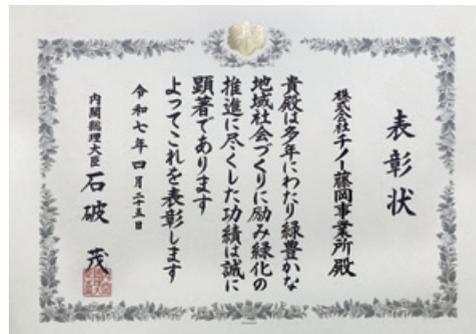
- ・ 群馬大学と各種環境調査（植物相モニタリング調査等）を継続実施
- ・ 高崎経済大学と連携し、ネイチャーゲーム等のオリジナルコンテンツによる環境学習を展開
- ・ 四季を通じた環境学習や当社社員が地元小学校へ出向いて出前授業などを開催
- ・ 地域社会とのコミュニケーションの場としてビオトープを開放（桜祭り、火曜日開放等）



地元小学生の環境学習  
(ネイチャーゲームの様子)

### < 主な受賞履歴 >

- 2013年11月 緑化優良工場等日本緑化センター会長賞
- 2014年 8月 関東水と緑のネットワーク拠点百選
- 2016年10月 緑化優良工場等関東経済産業局長賞
- 2018年 9月 環境教育等における体験の機会の場
- 2019年10月 全国みどりの工場大賞経済産業大臣賞
- 2022年11月 生物多様性保全活動賞
- 2025年 4月 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰**



## モジュール形記録計「データロガー」を発売

2025年3月にモジュールで構成された記録計「データロガー(FEシリーズ)」を発売しました。最大500点の多点計測を省スペースで実現できます。

### 特長

- ・ 高精度の測定、高信頼性のデータ記録
- ・ 要望に応じた柔軟なシステム構築が可能
- ・ Webブラウザ利用によるリアルタイム監視



### 【機能追加】

- ・ データ管理（クラウド）
- ・ AMS2750<sup>(※)</sup> 対応

※AMS2750：航空宇宙材向け熱処理規格

### 導入例

- ・ モニタリング市場（自動車・航空機・医薬等）で施設の生産設備等に接続された多数のセンサの遠隔監視にご活用いただけます。
- ・ 多点計測に対し、遠隔地で1画面で全体を見渡すことができます。



